

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

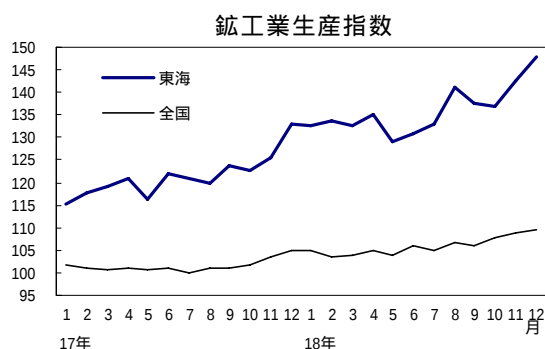
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 11 月）	今回（平成 19 年 2 月）	
住宅建設	大幅に増加	増加	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられたものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出が好調だったことなどから、高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内需要は一般機械向けを中心に、海外需要は北米向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。電気機械は、内燃機関電装品や電動機が自動車関連向けを中心に堅調に推移し、制御機器も、半導体関連向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。窯業・土石は、食器・陶磁器が低調に推移しているものの、ファインセラミックスが自動車向けを中心に好調だったことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、高水準で推移している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移し、液晶素子もテレビ、携帯電話など情報通信機器向けに好調だったことなどから、高水準で推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の東海は速報値。

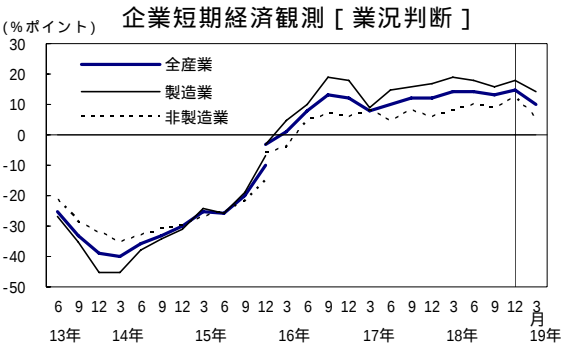
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	33.9	1.0	7.6	3.8	100.7
一般機械	11.3	▲2.4	2.4	3.6	5.0
電気機械	7.3	2.8	3.2	3.9	▲6.6
窯業・土石	6.1	0.0	▲0.2	1.4	0.6
化学	5.4	▲1.9	1.4	1.2	1.6
鉱工業	100.0	4.2	3.9	2.6	14.2

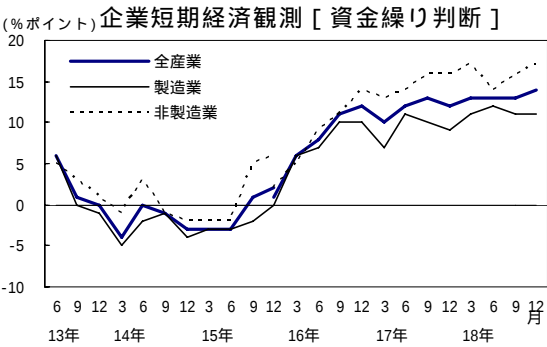
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10～12月期は速報値。
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

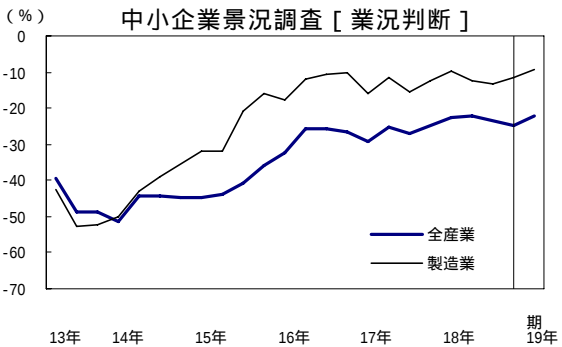
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

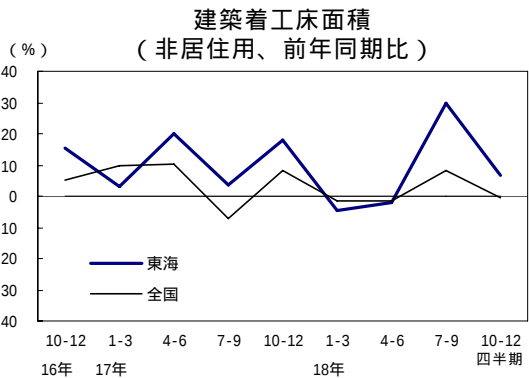
「暖冬が続き、冬商品の売行きが悪く、荷動きは鈍い。レジャー関連なども、活気に乏しい。原油価格はやや落ち着いているが、不安要素は多い(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

(前年度比、 %)		
	17年度実績	18年度計画
全産業	15.0	14.6 [14.5]
製造業	28.1	7.0 [6.3]
非製造業	▲ 0.9	26.6 [27.5]

(備考)[]は前回(9月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

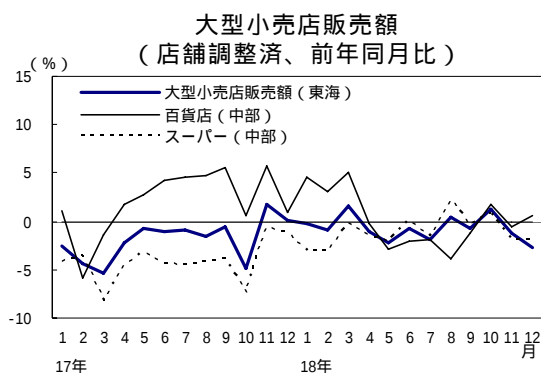
百貨店は、10月は、比較的天候に恵まれ、秋の改装効果や地元プロ野球チームのリーグ優勝効果などにより、衣料品やアクセサリ、バッグなどの身の回り品が好調だったことから、前年を上回った。11月は、食料品の動きは良かったものの、気温が高めに推移し、冬物衣料品が伸び悩んだことなどから、前年を下回った。12月は、閉店セール効果により、衣料品や宝飾品、美術品などの高額商品が好調だったことなどから、前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の1月の売上高は、前年同月比で1.7%減となっている。

スーパーは、飲食料品が10月以降2か月連続で前年を上回ったものの、衣料品が振るわなかったため、全体でも前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「暖冬の影響でスキーツアーの申込客は減少しているが、日帰りツアーや宿泊単品の直前申込が増加している(旅行代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

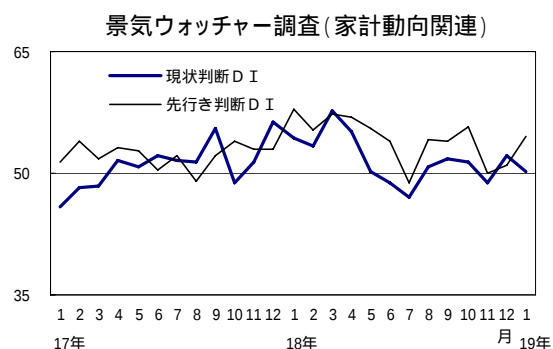
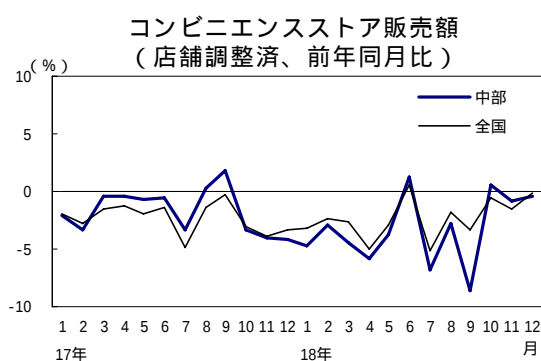


	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.1	▲1.4	▲0.8	▲1.1
百貨店	4.3	▲1.7	▲2.2	0.6
スーパー	▲2.2	▲1.2	0.1	▲1.1
コンビニ	▲4.0	▲2.8	▲6.1	▲0.2
景気ウォッチャー	55.1	51.4	49.9	50.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

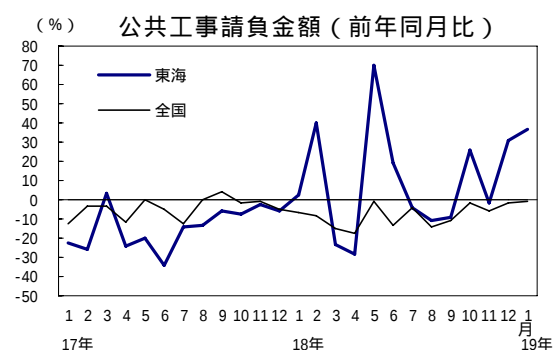
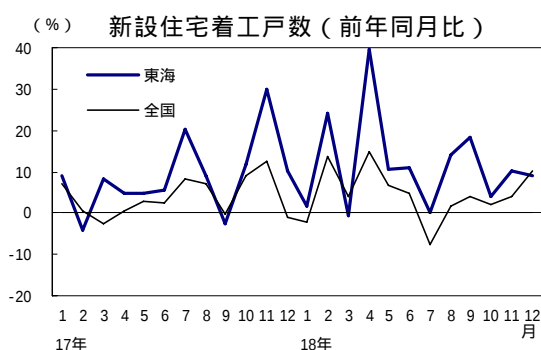
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

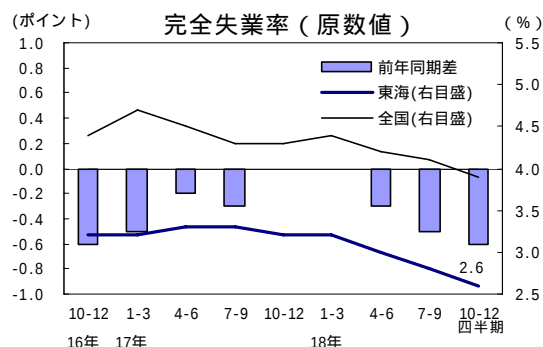
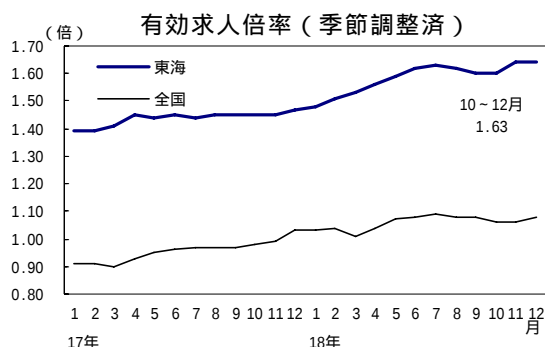


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

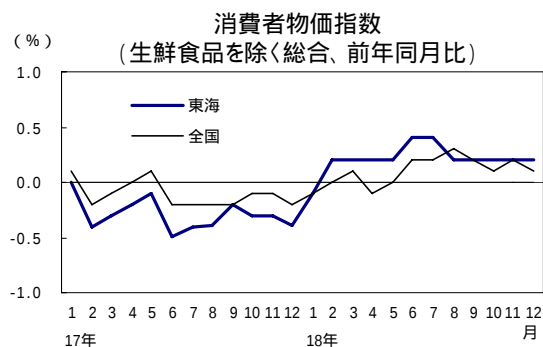
「求人数は相変わらず増加傾向にあるが、企業が求める人材を即座に見つけることは難しい（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	309	300	288	323	107
(前年比)	▲7.2	▲12.8	▲4.3	▲5.6	20.2
負債総額	1,001	1,392	1,023	939	329
(前年比)	▲59.6	▲16.0	▲21.8	▲36.1	41.9



○ 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・団塊世代の海外旅行が伸びている。ゴールデンウィークの予約は、ヨーロッパ、アメリカ方面を含め好調である（旅行代理店）

<先行き>

・名古屋駅前の高層ビル群の開業により、今後一層活気が出てくる（その他飲食[仕出し]）

景気ウォッチャー調査（合計）

